

## 本時のねらい

・コンパスを使用した作図ができ、作図の方法をわかりやすく他者に伝えられるようになる。

## 本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・動画で記録に残すことで、他の班の人が見なおした際に、作図のしかたが視覚的にわかるというメリットがある。
- ・授業時間内、時間外問わず、いつでも見直すことができる。
- ・動画を作成するために、わかりやすい言葉、見せ方を吟味することで、作図に対する理解がより深まる。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・発表ノート (SKYMENU Cloud)
- ・Forms (Microsoft)

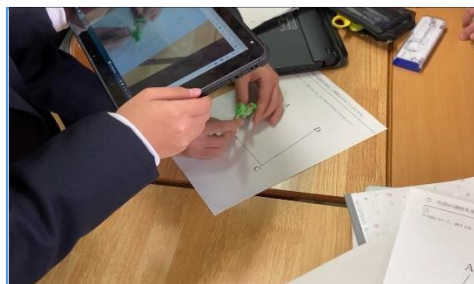
## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	1. 解説動画を作成するための問題を選択する。 本時のめあて「作図の解説動画を作って共有しよう」 ・評価をする際の注意点と評価基準を確認する。	解説動画を作成する際の注意点を抑えておく。 ・解き方がわかるように、作図のようすを撮影する。 ・映像だけでなく、言葉で情報を伝える。
展開 (35分)	2. 各班に与えられた問題を解き、解説動画を作成する。 ①担当の作図問題を解く。【写真1】 ②発表ノートで動画を作成し提出箱に提出する。 ※ <b>基礎的な作図の意図を理解し、それらに応用することができる。</b> 【写真2】 3. 解説動画の評価する。【写真3】 ・Forms を利用し、他班の解説動画の評価する。	発表ノートを使用して動画を作成する。  Forms を利用することで評価をすぐに見ることができる。
まとめ (5分)	4. 解説動画の評価を見て振り返る。	

## 1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真1】まずは紙面で作図に挑戦



【写真2】班で協力し、解説動画を作成



【写真3】発表ノートで提出し、動画を共有

## 児童生徒の反応や変容

課題が基礎的な作図ではなく、挑戦的な課題であったこともあり、得意・苦手に関係なく全員が課題に熱心に取り組むことができていた。また、動画を作成するにあたって、本当にわかりやすいか、どう説明すればいいかを、どの班も試行錯誤しており、ただ理解するだけでなくより深く理解しようとする姿が見られた。また、本授業は、動画撮影、作図、解説者など、班の全員が役割をもって取り組む必要がある。そのため、全員が学びを自分事として考え、誰一人取り残すことなく課題に取り組むことができていた。この取り組みは他の単元でも実施しており、前回よりも解説の質の向上も見られた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・動画は、作図の手順を視覚的に理解するのに有効である。本単元は、手順の難しい作図も多くあり、文章や言葉では理解することが難しい。そこで、作図のようすを動画にすることで、視覚的に理解しやすい仕掛けを行っている。
- ・発表ノートを提出させると、他班の動画を瞬時に共有できる。これまで、席を移動するなどして時間をかけて共有していたことが、クラウド上では瞬時にできるというメリットがある。
- ・解説動画を作成することで、他者に伝えるという意識を持ち、情報を整理し伝える力を育むことができる。